

# ぱちんこ 言葉物語

111

## リバイバル

今回の言葉物語は「リバイバル」です。過去の名機復活が盛んですが、その成功と失敗の原因は何でしょうか。ちょっと掘り下げてみたいと思います。**完全再現と新テイスト**

ここで言う「リバイバル」とは、過去の名作と呼ばれる機械を現代に再登場することを目的としたものを言うことにします。昨今では、パチンコではCRFクイーン、パチスロではハナビの成功があると思います。

このリバイバルは大きく2つの方向性があります。一つは見た目や演出、果てはスペックに至るまでの完全再現

を目的に開発されたもの。もう一つは過去の名機をモチーフに、現代のテイストを盛り込んだものです。多くの機種では後者の開発が行われ、過去の名機の名前が新台機種に名を連ね

ると、特に業界人はある種の期待と不安を抱いてしまうところでは

それは、リバイバル機種は過去の名機と比較されてしまうため、「こんな〇〇じゃないから稼働しない！」と無下に否定する方も多いのが特徴なのです。しかし中にはCR春一番こいこい八Gのように1年以上稼働貢献する機種もあります。この機種は遊パチスペックですが、昨今では遊パチでも長期稼働するケースは珍しく、稀有な成功例と言えます。ではリバイバル機種の成功と失敗の傾向はどこにあるのでしょうか。

### 「スペック」がポイント

大きな傾向として「適度なスペック」があると考えられます。「適度な」とは、その機種を遊ぶ上での適度かつ特徴的な波が発生するスペックであることを指します。これは業界用語でいうところの「TY(確率変動を含む特賞全体の獲得出玉期待値)」という数値的表現だけではなく、体感的に



CR春一番～こいこい八でありんす～GL  
元祖を知る人にとっては  
花札程度しか面影が無いものの、  
適度なスペックと分かり易いフローが  
人気となる。  
©NISHIJIN



CRエヴァンゲリオン10  
今回の対象機種ではないが、  
大量導入機種の中でも時代で  
スペックがこれほど変わるのは  
同シリーズのみ。  
大量導入の責任を果たすべく、  
メーカーも必死なのだ  
同シリーズを打つ度に痛感するのだ。  
©カラー©SANKYO©Bisty

感じる波も含まれます。

先述のパチスロであるハナビや、最近登場したサンダーVリポルト等は、元祖も基本スペックはほぼ変わらず、当時の機械割とは多少異なりますが、イメージや基本の打ち方をそのまま行える点からも、当時を知る方だけでなく現代世代からも厚い支持があります。そしてCR春一番ですが、これは元祖機の面影は正直皆無です。しかしながら同シリーズは花札のモチーフは活かし、その時期に合うスペックを考慮し様々な形でリバイバルをしてみました。共通するのはスペック的に「遊びやすい」事です。フローも他機種と比べてシンプルに仕上がっているため分

かり易く、直感でアツさが分かります。今なお中古機導入が続くのは、間違いない名機の証と言えるでしょう。先述のCRFクイーンも当時のスペックを現代の射幸性に沿った上で、高いレ

ベルで再現されたことはドラムリールの完成度と並ぶ特筆点と言えます。

### 何度でも帰ってきて

私は現役パチンカーとして、スペックだけで絶対に評価は下せないと思っ信しています。しかしながら時代はネット社会。極端な話、スペック表だけで評価が登場前にユーザー評価が下ってしまった機種もあります。メーカー各社にとって、スペック決定は重大な意思決定で、特にリバイバル機というのは過去のイメージも絡む難しい問題です。

お客様は誰なのか定義しにくい業界構造ですが、リバイバル機は少なくともユーザーがその中に入るはずですから、だからこそ市場評価を真摯に受け、恐れずに何度でも帰ってきて欲しいと思うのです。「これもアリだな」と思えた瞬間、過去の名機は再び輝きを取り戻すのですから。(大和田敏男)

## 名機復活の勘どころは